



なぎさ公園小学校における「身体表現」の取り組み

～豊かな感性と表現する力、仲間と豊かに関わり合う力の育成を目指して～

なぎさ公園小学校
教諭 林 佳江

本校の教育目標の一つに「ふるえる心(感性)を育てたい」があります。豊かな創造力、表現力そしてしなやかな感性を養うことを目指しています。これらを養う教科のひとつに、体育が挙げられますが、本校では、1・2年生の体育を「体育」「みちくさ」「身体表現」の3領域に、3年生では「体育」「身体表現」の2領域に分けて指導しています。その中でも、「身体表現」という教科では、共感する力や集団で学び合う力、自分の感性を大切に活発な創造表現意欲を高めていきます。

「身体表現」は行事との関連も深くなぎさ公園小学校においては特色ある分野です。本稿では、主に表現遊びや表現運動・リズムダンスなどの日常の「身体表現」の授業の様子、運動会での「なぎさフラッグ」、なぎさ祭での「日本の舞」の3つに分け、本校の取り組みをご紹介します。

心と体を拓く魅力的な授業

1年生は入学してすぐ「いきものランド」「動物ランド」「乗り物ランド」という単元の中で、身近に関心が高く、特徴を捉えやすい、また具体的な動きを多く含む題材を取り上げた学習に入ります。「クラスの友だちのなかで何かになりきって表現することは恥ずかしいことではない」、「ペアで表現するとアイデアを出し合えて楽しい!」という感覚をつかんでいきます。

また毎時間、中心となる学習内容に入る前にどの学年でも、ウォーミングアップとして心と体をほぐし、体の使い方を引き出す表現遊びなどを取り入れ

ます。これらにより、普段とらないようなポーズに挑戦したり、動きの要素について分析して見たりする感性を磨いていきます。



2年生の「新聞紙になって」の単元では、まず新聞紙を使って遊んだあと、新聞紙になりきって、揺れる、くしゃくしゃになる、畳まれる、ねじられる、なげられる、などの動きを模倣します。次にその動きからイメージされるもの(風に揺れるカーテン、折り紙、しぼられるぞうきんなど)をひとまとまりの動きで表現します。はじめは一人で見つけた即興的な動きやイメージを、ペアで見せ合い教え合うことで、互いに踊れるようにし、さらに別のペアと組むことで互いの動きをつけ足します。そのつなぎの部分には「あ、大変だ!」「わー、やぶれちゃった!」「遠くまで飛ばされたー!」などという変化が起こる部分を作って、自分たちの動きの間に入れるよう指示します。これにより、動き・空間・時間・人間(の位置)関係に変化をつけさせます。こうして40秒～1分程度のひとまとまりの動きを作り、簡単な作品を完成させます。



はじめは即興的でどのように動くか決まっていなかったものを、4～5人で繰り返し練習することで、何度踊っても、同じ動きになるように完成させます。最後は発表会を行い、工夫している点、面白い表現の部分などに着目させて互いの班に褒め言葉のプレゼントをします。

自分が感じたことを表現し、仲間が感じたことを日々の授業の中で行うことで、共感する力や集団で学び合う力を着実に獲得し、その他の授業や行事にも活かされていきます。

集団の美「なぎさフラッグ」

普段の授業では「ほかの人が思いつかないような動きを工夫しよう」と声をかけていますが、運動会の集団演技「なぎさフラッグ」では「みんなが揃うことの美しさ」を大事にします。1～3年生の全員が芝生のグラウンドで繰り返す「なぎさフラッグ」は感動的です。1年生で基本的なフラッグの操作を何パターンか練習し、学年が上がるにしたがって難易度を上げ、曲に合わせて隊形移動をしたり、時間差をつけた動きにしたりするなど変化にとんだ構成にします。

近年は「なぎさフラッグ」のテーマを毎年児童と話し合い決めて取り組んでいます。また、選曲も児童からアイデアを募り、児童が主体的・意欲的に取り組めるようにしています。

昨年度のなぎさフラッグでは「一歩ふみだそう」というテーマを掲げ、困難な状況にあっても前向きに頑張っていくとする人々へのエールを込めた曲を選びました。冒頭では、「How Far I'll Go」(屋比久知奈「モアナと伝説の海より」)の曲にのせて1年生の演技、次に「HERO」(HANDSIGN)の曲で3年生の演技、そして「スタートライン」(イトヲカシ)で2年生も合流し、大きな山場となります。最後は「Another Day of Sun」(LaLaLand Cast「LaLaLand」より)で1～3年生がグループごとに創作部分を披露しました。この創作部分は初の試みで、1～3年生の色ごとに縦割りチームを編成し(全12チーム)、オリジナルの動き8呼間を披露しました。チームによっては、上級生である3年生が自主的に声をかけ、昼休憩に集まって練習を続け、当日は見事な発表となりました。保護者の方はもちろん、「先生、今年はどんなのをやるの?」と楽しみにしていた4年生～6年生も、後輩たちの演技をあたたかく見守ってくれていました。

1年生の時はフラッグを振るのも精いっぱいだった児童が、3年生で胸を張って「ビュン、ビュン」と風を切りながらフラッグを振る姿は圧巻です。演技

の上達ぶりと、児童の成長に胸が熱くなる瞬間です。

200名を超える異年齢の児童が集団として美しい演技をめざすのは容易なことではありません。しかし、3年生がフラッグリーダーとして低学年に助言したり、支えたりしながらよりよい表現を創り上げていくまたとない機会になっています。

伝統文化の継承「日本の舞」

1・2年生は2時間ずつ、3年生では11時間を使って「日本の舞」の授業に取り組みます。花柳流師範のお二人の先生にご指導いただいています。1・2年生では足袋を履いて、立ち・座り、扇子の開き方・閉じ方などの基本的な所作を学んだあと、簡単な曲を通して踊ります。3年生になると着付けを学び、ご家庭で準備していただく浴衣と帯を身に付けてなぎさ祭での舞台発表に向けて練習していきます。

生活様式が洋風になっている昨今、三つ指を付いて丁寧にお辞儀をする、すり足で歩く、両手で(片手を添えて)ものを持つなど、児童にとっては戸惑うことの多い学びですが、日本の文化に触れる貴重な時間となっています。3年生では学習に入る前に、使用する曲の歌詞の意味や、難しい言い回し・掛詞などを解説してイメージを持たせます。クラス別、男女別で練習をしますが、動画を撮って振り返ったり、互いに見合った後アドバイスし合ったりして精度を高

めていきます。昨年度は「姿三四郎」「越後獅子」「秋の色種」「菊づくし」の演目に取り組みました。



1月には例年インフルエンザが流行し、全員そろっての練習も困難になる中、3年団の教員の協力も得ながら練習を重ねます。日本の踊りの大きな特徴は低い重心の位置と、緩やかな足の運びです。はじめはぎこちなかった動きも、ステージでのリハーサルを迎える頃には息を合わせて動きを揃え、決めポーズで姿勢を保てるようになりました。

発表当日は5・6年生の体育委員会の児童が司会を務め、多くの保護者や他学年児童に見守られて発表し達成感を味わいます。

このように、本校の児童は1～3年生で、さまざまな表現の場を経験し、豊かな感性を磨き、表現することの楽しさと技術、そして仲間と関わり合い、集団で学び合う力を獲得していきます。小学生で獲得したこの力は、これからの時代を生き抜く上で、大きな力となることでしょう。